

読売

教育ネットワーク

社会はまるごと学校——
すべての大人が先生です



国際学生科学技術フェア(ISEF)に参加した日本学生科学賞の代表出場者ら(詳細は2・3面)

巻頭特集 米国際科学フェアで優秀賞 2・3

レポート **クマムシに生命の神秘学ぶ** 4

仙台二高×慶應大学先端生命科学研究

学校×企業 三浦学苑×丸紅「高校生のための『総合商社』講座」 5

奈良で新聞制作講習会 5

相模女子大高×読売新聞 都立雪谷高×第一生命 東京家政大×日本電機工業会 6

お知らせ・短信 7 リレーエッセー 8

2015.6
Vol.6



第4回 全国学生英語プレゼンテーションコンテスト 応募開始

英語で企画発表(プレゼンテーション)できる人材育成を目指す「全国学生英語プレゼンテーションコンテスト」(主催・神田外語グループ、読売新聞社、後援・外務省、米国大使館など)の第4回大会が11月28日(土)、東京都千代田区の神田外語学院およびよみうり大手町ホールで開かれます。対象は、全国の大学生、大学院生、短期大学生、高等専門学校生、専門学校生です。テーマは、①地方創生につながる海外企業の誘致を提案! ②日本の「最新技術」を世界に! ③障害者スポーツの認知度向上のための施策を提案! ④ご当地グルメを世界の食に! —の4つです。

審査員は、日本英語交流連盟会長で元駐カナダ大使の沼田貞昭氏ほかで、最優秀賞受賞者(1人または1組)には、奨学金100万円が授与され、読売新聞の英字新聞「ジャパン・ニューズ」が6か月間届けられます。応募締め切りは、個人の部10月15日、グループの部10月21日です。応募はHP (<http://www.kandagaigo.ac.jp/contest/>) からお願いします。

こども作文コンクール 応募開始

はたらく父・母への感謝の気持ち、あこがれの仕事、夢の仕事への思いをつづるこども作文コンクール「感謝の心を、未来につなぐ。」(主催:読売新聞社、共催:一般財団法人あんしん財団)の応募が始まりました。テーマは「①こどもたちからはたらく父・母へ、感謝の気持ち」「②あこがれの仕事、夢の仕事」の二つです。小学1・2年、3・4年、5・6年の3部門に分けて審査を行い、大賞(3人)には賞状と図書カード5万円分の副賞が贈られます。お問い合わせは、こども作文コンクール事務局(☎03・6712・5021)。

【規定】

400字詰め原稿用紙3枚(1200字)以内

【応募先】

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-42-13

TAKIビル表参道1階 こども作文コンクール

「感謝の心を、未来につなぐ。」事務局Y係

※住所、氏名、年齢(生年月日)、性別、学校名・学年、電話番号を明記。締め切りは9月10日(消印有効)

【発表】10月中旬ごろ事務局から直接ご連絡いたします。10月31日(土)東京都内にて授賞式

丸の内キッズジャンボリー2015 ~セレクション開催~

小中学生の子どもたちとその家族を主な対象にした、楽しく学べる参加体験型イベント「丸の内キッズジャンボリー2015~セレクション開催~」(主催:東京国際フォーラム、共催:読売新聞東京本社)が8月12日から14日まで東京都千代田区の東京国際フォーラムで開催されます。東京国際フォーラム開館10周年記念事業としてスタートし、子どもたちの好奇心を刺激、世界を広げる夏の大イベントで、今年で9回目を迎えます。



昨年のジャンボリーで行われた「味噌の食べ比べ教室」の様子

子どもたちが実際に体験できるワークショップ形式の紙巻き色鉛筆づくりや、味噌(みそ)の食べ比べ教室のほか、大学教授による夏の特別授業など、多彩な催しが展開されます。また、人気の「丸の内キッズジャンボリー新聞社」では、プロの記者から新聞作りの極意を学び、キッズジャンボリー特別号を制作、出来上がった新聞は会場内で貼り出されます。夏休みの宿題に役立つヒントも豊富です。

いずれも午前10時から午後5時で、参加費は無料ですが、一部プログラムには、事前の申し込みや当日の整理券が必要になります。詳細はHP (<http://www.tif-kids.jp/2015/>) でご覧頂けます。(一部、材料費がかかります)

問い合わせは、丸の内キッズジャンボリー事務局(☎03・5221・9630)

第1回「新聞検定」9月12日開催

読売新聞は、学研グループ・市進教育グループと協力し、情報を読み解く「メディア・リテラシー」の向上を目的とした「新聞検定」を今年初めて1都3県で開催します。用意された特定の日の読売新聞を読みながら、様々な問題を解く新しいスタイルの検定です。

新聞から正解を導くことを通して、情報を正しく読み解く力、視野を広げてものを見る力、自分の考えを正しく伝える力を養う新聞検定は、ネット社会だからこそ必要な「メディア・リテラシー」を鍛えてくれます。

現在、専用ホームページを準備しています。詳細が決まりましたら改めてお知らせします。

【実施日時】9月12日(土)

▽自分の考えを正しく伝える力

【検定料】無料

【部門】「初級」(小4~6年生向け、検定時間50分)と、「中級」(中学生以上向け、検定時間50分)

【主催】読売新聞東京本社

【共催】学研グループ、市進教育グループ

【会場】東京、千葉、埼玉、茨城の学研グループ、市進教育グループの各塾など

※問題用紙と新聞は持ち帰れます

※親子で受験出来る会場があります

【検定内容】▽新聞から情報を正しく読み解く力▽視野を広げてものを見る力

※上記内容は一部変更される場合があります

帰国生のための 学校説明会・相談会

海外子女教育振興財団は海外に滞在している児童・生徒とその保護者を対象に帰国後の進学に関する「帰国生のための学校説明会・相談会」を7月に3回開催します。説明会では、小学校から大学まで主な帰国生受け入れ校の担当者が各校の指導方針、選考方法について説明するほか、質問に答えます。申し込みはHP (http://www.joes.or.jp/kokunai_setsumeikai/index.html) の申し込みフォームから。問い合わせは同財団国内説明会担当(☎03・4330・1349)。開催の詳細は以下の通りです。

東京会場 ●7月31日(金)12:00~16:00

場所:都立産業貿易センター浜松町館(港区海岸)

大阪会場 ●7月25日(土)13:00~15:30

場所:毎日新聞ビル(大阪市北区)

名古屋会場 ●7月21日(火)12:00~15:30

場所:愛知県産業労働センターウインクあいち(名古屋市中村区)



島袋稜士さん(本人提供)

海外留学を目指す高校生に進学支援を行っているNPO法人「留学フェロロシップ」のメンバーが、海外のキャンパスライフをリレー連載します。留学フェロロシップの詳細はウェブサイト (<http://ryu-fellow.org>) へ。

英語の原文は <http://the-japan-news.com/news/article/0002154312> でお読みいただけます。



場所だ。もしも練習問題が尽きるようなことがあれば、週末はローマに行くように、と担当教授が語ったことを今でも覚えてる。日本だったら冗談で終わるが、エジンバラではそうでもない。

大学で最もわくわくする瞬間は、自分の学んだことのダイナミクスと相関関係を感じる時だ。ラテン語の場合、古代の史料が読めるようになるばかりでなく、国際法講義に出てくる「エクオ・ボノ（公正で善なるもの）」「ユス・コーゲンス（強行規範）」などのキーワードもしっかりと把握できる。

自信を持って言えることがある。それは、知識が非実用的な

トリビアではなく、自分を取り巻く現実社会で強い意味を持っているということだ。例えば、昨年9月のスコットランド独立運動のデモやポスターを眺めながら、ロイヤル・マイルにあるアダム・スミス像を見上げる（アダム・スミスはスコットランド生まれ、エジンバラ大で講義していたのだ）。すると、その瞬間、彼の理想とする自由放任型経済と、最近のデモが達成しようとしていた政治的目標とが私の目には重なって見えたのだ……。

学友たちとの交流も、自分の知識の弱さに光を当ててくれる、という点で有意義だ。タイ人の友達が、日本の技術的発展の成功を語学的観点から説明しようとしていたのに感銘した。彼によれば、日本語は技術的用語を（カタカナを使って）直接、輸入することが出来たがために、知識を効果的に吸収し劇的な発展が可能になった、というのだ。このような見方は、日本で学んでいたら意識しないだろう。

留学の意義は、興味を感じたことに関する知識を深める機会があることであり、時には、実生活の中で実行したり、見直ししたりすることだと信じている。己の哲学を進化させたいと願う

2015年夏 高校生翻訳コンテスト

2014～15年の年末年始に実施した英字新聞ジャパン・ニュースの「翻訳コンテスト 高校生特集」を高校生の夏休み期間に合わせて開催します。今回は前回と違って「英文和訳」を課題とし、応募期間も前回の倍となる約1か月間を設定しました。

7月10日付の紙面に問題文を掲載後、募集を開始します。7月24日付でも同じ課題文を掲載します。締め切りは8月上旬です。9月4日に紙上で優秀者などを発表した上、講評を掲載いたします。詳しくは7月10日付の語学学習面 LearningLab をご覧ください。



海外で学ぶ・リレーエッセー ⑥ 英エジンバラ大 「スコットランド 古都のリベラルな探求者」

加藤学園暁秀高（静岡県沼津市）
エジンバラ大学1年

島袋稜士さん



ならば、エジンバラの地理的な位置づけ、そして、この街に集う人々のクオリティーをオススめたい。私がここで学んでいる理由が、まさに、そこにある。（会報編集部抄訳 The Japan News 2015年1月29日）